第10回組織開発ラボラトリー②

コンテナをホストしホールドする（Hosting and Holding Containers）

担当者	クリス・コリガン氏 ケイトリン・フロスト氏
概要	クリス・コリガン氏は、アート・オブ・ホスティング、オープンスペーステクノロジーなどの対話の場づくりとファシリテーションの豊かな経験があり、「対話型組織開発」第13章「コンテナをホストし、ホールドする」を執筆しています。コンテナとは、対話の場（器）を指しています。 今回は、「対話型組織開発」第13章の内容の一部について体験から学ぶことができるように、講師のお二人が新たに設計したワークショップが行われます。対話の場の中で、ホスト（ファシリテーター）として、場と自分自身をホールドして対話を促進していくありようについて学ぶことができます。自分自身の内なる声に対して自らホストする「ホスティング・セルフ」（「対話型組織開発」p.458）についても取り扱われる予定です。 ※このワークショップは通訳付きで行われます。
日程	2019年6月9日（日）10:00～18:00
定員	50名
会場	南山大学　D棟D51教室
参加資格	※この講座単独でもお申込みいただけますが、より深い学びのために、この講座と第10回組織開発ラボラトリー①（6/7～8）「複雑性に働きかける」の両方を受講されることをお勧めします。 ※「対話型組織開発」第13章「コンテナをホストし、ホールドする」をお読みいただくことが事前課題になります。
受講料	受講料35,100円＜税込＞ ※第10回組織開発ラボラトリー①（6/7～8）と同時にお申し込みいただいた場合のみ、セット割が適用されます。（セット割受講料108,000円） ※希望される方には昼食としてお弁当（別途1,080円〔予定〕）を事前予約いただけます。 ※第10回組織開発ラボラトリー①（6/7～8）と同時にお申込みいただいた場合のみ、6/8の夜に南山学園研修センターにご宿泊いただけます（１泊朝食で3,900円）※部屋数に限りあり
メルマガ 講座報告	コーディネーター　中村和彦　記 　講師を海外から招へいし、組織開発のワークショップを開催する企画を、当センターでは「組織開発ラボラトリー」と呼んでいます。今年度は、共催としてArt of Hosting Nagara 2019呼びかけ人チームと一般社団法人サステナビリティ・ダイアログさまにご支援いただき、２日間の宿泊ワークショップ「複雑性に働きかける」と、１日の「コンテナをホストしホールドする」を開催しました。 　講師は、クリス・コリガンさんとケイトリン・フロストさん。カナダのバンクーバー郊外、ボーエン島に住んでいる、自然を愛するご夫婦です。クリスさんは「対話型組織開発」の13章を執筆されています。 　３日間通しでご参加いただいた参加者29名の皆さんにとっては、講師のお２人の解説やワークを通して、複雑なシステムとともに働くための視点や考え方を深く学んでいただく機会になったと思われます。扱われた内容は、 ２日間のワークショップ「複雑性に働きかける」 　・カネヴィン・フレームワーク（スノーデンが提唱） 　・複雑性の中でセルフとともに働きかける 　・シンプルルールを見定める 　・アダプティブ・アクションと制約：ＣＤＥモデル（コンテナ、違い、やりとり） １日のワークショップ「コンテナをホストしホールドする」 　・コンテナとは？ 　・ＡＢＩＤＥモデル（スノーデンが提唱） などです。１日参加となった皆さまには、時間の制約からやや消化不良気味となった方もいらっしゃるかもしれません。今回の３日間で紹介された知恵や考え方のベースはArt of Hostingにあります。是非、さらなる探究の旅を続けながら、ともに学んでいきましょう。 　最後に、３日間のワークショップでエネルギッシュにホストしてくださったクリスさんとケイトリンさん、そして、２人のメッセージを日本語でわかりやすく（そして日本語から英語は同時通訳で）伝えてくださった、東千恵子さんと福島由美さんに感謝申し上げます。さらに、サステナビリティ・ダイアログの代表の牧原ゆりえさんには、資料の事前の監訳やワークショップ当日のグラフィック（受講者の皆さんの学びがさらに豊かになりました）に多大なサポートをいただきました。他にも多くの皆さんや事務局のご支援、ご協力で、チームとして今回のワークショップを運営することができました。本当に